

# 花かごとたいこ

小川未明

青空文庫



ある日<sup>ひ</sup>たけおは、おとなりのおじさんと、釣<sup>つ</sup>りにいききました。

おじさんは、釣<sup>つ</sup>りの名<sup>めいじん</sup>人<sup>じん</sup>でした。いつも、どこかの川<sup>かわ</sup>でたくさ<sup>さ</sup>な<sup>かな</sup>ん魚<sup>な</sup>を釣<sup>つ</sup>ってこられました。

たけおは、こんどぜひいっしょにつれていってくださいとおねが<sup>ね</sup>が<sup>が</sup>いしたところ、ついに、そののぞみをたつしたのでした。

電<sup>でん</sup>車<sup>しや</sup>をおりて、すこし歩<sup>ある</sup>くと、さびしいなか町<sup>まち</sup>に出<sup>で</sup>ました。それを通<sup>とお</sup>りぬけてから、道<sup>みち</sup>は、田<sup>た</sup>んぼの方<sup>ほう</sup>へとまがるのです。

この角<sup>かど</sup>のところ<sup>ところ</sup>に、小<sup>ちい</sup>さな店<sup>みせ</sup>がありました。

「ちよつとまつてて。」と、いっておじさんは、その家<sup>いえ</sup>へはいり、たばこをお買<sup>か</sup>いになりました。またそこには、いろいろと釣<sup>つ</sup>りの

道具どうぐも売うっていたので、おじさんは針はりや浮うきなどを見みていらつしやいました。

たけおは、ぼんやりと前まえに立たつて、あちらのたか高い木きの若葉わかばが、  
お空おおぞらにけむっているのを、心こころから、美うつくしいと思おもつて、ながめて  
いました。

そのうち、ふと気きづくくと、店みせのちよつとしたかざりまどのとこ  
ろへ、二つならんだお人にんぎょう形がたが、目めにはいりました。かわいら  
しい女おんなの子こと、ぼうしをかぶった男おとこの子こで、女おんなの子こは、花はなかごを  
もち、男おとこの子こは、たいこをたたいていたのでした。日にっ本ぽんの子こど  
もらしくくない、西せい洋ようの子こどものふうをしていました。

「船ふねできた、お人にんぎょう形がたかしらん。」と、考かんがえていると、ちよう

ど、おじさんが出ていらしって、「おまちどおさま。」と、たばこをくわえて、にこにこしながらおつしやいました。そして、先に立ってお歩きになったので、たけおもあとについて、かげろうのあがる田んぼ道をいきました。そこここに、つみ草をする人たちがありました。

やっと川のそばへ出ると、なみなみとした水が、ゆつたりとうごいて、日の光をみなぎらせていました。

そして、わすれていたなつかしいおいを、記憶によみがえらせました。

それから二人が、草の上へこしをおろしました。じつと、川のおもてをみつめていると、青い水の上へ、緑色の空がうつり

ました。

いつしかたけおは、まだ自分の知らない、遠い外国のことなど空想しました。すると、さっきのかわいらしい人形のよ  
うな子どもが、そこであそんでいるのが、目にうかびました。ま  
た自分がいけば、いつでもお友だちになってくれるような気がし  
ました。たけおは、そう思うだけで、うれしさとはずかしさで、  
顔があつくなるのでした。

パチパチと水のはねる音がして、銀色の魚がさおの先でおど  
つて空想は、やぶられました。このときおじさんが大きなふな  
を釣られたのでした。

この日おじさんは、釣られた魚を、みんなたけおのびくに入れ

てくださいました。たけおは、自分じぶんは釣つれなかつたけれど、大たい

漁ようなので、大おおよろこびでした。

帰かえりにもう一度どあの人にんぎよう形かたちを見みられると思おもつたのが、道みちがち

がつて、ほかの場所ばしよから電でん車しゃにのつたので、ついに、人にんぎよう形かたち

のある店みせの前まえを通とおらなかつたのです。

電でん車しゃにのつてからおじさんに、たばこを買かつた店みせで、船はく来らい

の人にんぎよう形かたちを見みたことを話はなすと、

「なあにあれば、ざらにある安やす物ものだ。」と、おじさんは、気きに

もとめられませんでした。

物もの知しりのおじさんのことばだけに、たけおは、じきあの人にんぎよ

形かたちを、ほしいと思おもうのをあきらめてしまったが、どこか遠とおい花はな

ののさはくら野原を、花かはごなをもった美しい少し女やうじよと、たいこをたた  
く男おとこの子が、いまでも歩あるいているような気きがして、そう思おもうだけ  
でも、なんとなく自分じぶんは、たのしかったのであります。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 14」講談社

1977（昭和52）年12月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「みどり色の時計」新子供社

1950（昭和25）年4月

初出：「小学二年生」

1948（昭和23）年4月

※表題は底本では、「花《はな》かごとたいこ」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2018年12月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 花かごとたいこ

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>